

令和 6 年 6 月 27 日現在

機関番号：62601

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K02613

研究課題名（和文）子どもの生活と学びをつなぐ「預かり保育」の絵本カリキュラムの開発

研究課題名（英文）Development of a picture book curriculum for " educational activities provided during extracurricular hours " that connects children's lives and learning.

研究代表者

横山 真貴子（Yokoyama, Makiko）

国立教育政策研究所・幼児教育研究センター・総括研究官

研究者番号：60346301

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、幼稚園の「預かり保育」のカリキュラムを絵本に着目して開発することである。主に幼稚園での教育課程に係る教育時間と預かり保育の縦断的な観察から、預かり保育における子どもの絵本との関わりを、(1)学年の特徴、(2)環境変化による変化、(3)1年間の変化、(4)参加回数多寡による違いの4観点から分析し、国内の先駆的な実践を行っている園の訪問調査の結果と総合し、「預かり保育」の絵本カリキュラムを開発した。カリキュラムは、絵本リスト、絵本環境、絵本から発展する活動、学びの4点に着目して作成し、1年間の園生活の流れに沿って子どもの姿、ねらい、及び環境の構成と保育者の援助とともに提示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「預かり保育」における子どもと絵本の関わりを縦断的に観察研究することで、具体的な子どもの姿から、年齢、経験、在園時間が異なる多様な子どもたちがともに過ごす場での絵本の役割を明らかにした。安定できる居場所を提供する、友達との関わりを生み、広げる、興味・関心を広げ、探究を支えるの3つの役割を示し、これらに基づき「つなぐ」「むすぶ」「ひろげる」の3視点から、「預かり保育」における絵本カリキュラムを開発した。多様な子どもたちの集団生活の場での絵本の意義を新たに示すとともに、幼児教育において絵本に着目し、子どもの生活と学びの連続性を捉え、保障するカリキュラムを作成することの可能性を開いた。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to develop a curriculum for " educational activities provided during extracurricular hours " in kindergartens, focusing on picture books. Based on longitudinal observations of educational activities provided during both curricular hours and extracurricular hours, I analyzed children's relationships with picture from four perspectives: (1) characteristics of grade level, (2) changes due to environmental changes, (3) changes over one year, and (4) differences depending on the number of times the children participated in educational activities provided during extracurricular hours. The results were synthesized with the results of visits survey to pioneer practice kindergartens in Japan, and a picture book curriculum for " educational activities provided during extracurricular hours " was developed. The curriculum was developed focusing on four aspects: picture book lists, picture book environments, activities that develop from picture books, and learning.

研究分野：保育学

キーワード：預かり保育 絵本 幼稚園 カリキュラム

## 様式 C-19、F-19-1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

幼稚園教育要領(2017)では、登園から降園前までの子どもの生活全体を捉えた「全体的な計画」の作成が求められており、幼稚園では4時間の教育課程に係る教育時間に加え、「預かり保育」など教育課程外の活動においてもカリキュラムの作成が必要となった。

「預かり保育」とは「教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動」のことであり、「保護者の希望に応じて、4時間を標準とする幼稚園の教育時間の前後や土曜・日曜、長期休業中に、幼稚園において教育活動を行うもの」(文部科学省, 2006)である。園によって実施形態も参加する園児の実態も多様であり、実施回数や実施時間、担当者等も異なる。同じ園であっても参加する園児の人数や年齢には毎回ばらつきがあることも多く、学年ごとの同一集団に向けた教育課程に係る教育時間とは大きく異なる。そのため、1日の生活の流れを見通し、教育課程に係る教育時間との連続性を踏まえた「預かり保育」のカリキュラムを作成することは容易ではない。

子どもの生活や学びをつなぐものの1つに絵本がある(横山, 2018)。絵本は、乳幼児期早期から子どもの生活の中に豊かに存在する。絵本を中核に据えれば、子どもの生活全体を捉える「預かり保育」のカリキュラムが作成可能と考えられる。しかし、「預かり保育」において子どもが絵本とどのように関わっているのかを明らかにした研究は見られない。そこで本研究では、まず家庭、園での教育課程に基づく教育活動と「預かり保育」における子どもと絵本との関わりを明らかにした上で、子どもと絵本の関わりや場による独自性を検討することで、絵本との関わりを軸とした「預かり保育」のカリキュラムの作成を目指す。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、幼稚園の「預かり保育」のカリキュラムを絵本に着目して開発することである。幼稚園教育要領(2017)では、子どもの生活全般を捉えたカリキュラムの作成が求められている。本研究では、3歳から5歳まで同一の対象を3年間縦断的に調査し、幼稚園の4時間の教育課程に係る教育時間と「預かり保育」、家庭での子どもと絵本の関わりを、保育観察、保育者へのインタビュー、保護者への質問調査によって描き出すことを目指す。同時に「預かり保育」に先駆的に取り組む園の訪問調査を横断的に実施し、これらを総合的に分析することによって、子どもの生活と学びをつなぐ「預かり保育」の絵本カリキュラムを、絵本リスト、絵本環境、絵本から発展する活動、学びの4点に着目し、開発することを目的とする。

### 3. 研究の方法

#### (1) 縦断研究

本研究では、元所属大学附属幼稚園を協力園とし、2019年度の3歳新入園児を対象に5歳卒園時まで3年間、教育課程に係る教育時間と「預かり保育」の観察、保育者へのインタビュー、及び保護者へのアンケートを実施予定であった。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大により、協力園では2019年度3学期2020年2月末から休園となり、翌2020年度も4~5月の2か月間休園した。再開した6月も半月は隔日登園となり、「預かり保育」の実施も見送られた。2021年度においても3学期は2022年2月から3月末まで、感染拡大により幼稚園関係者以外は園への立ち入りが禁止された。そのため、縦断研究として予定していた観察が十分に実施できず、保護者アンケートも実施予定時期が休園及び立ち入り禁止時期と重なり実施できなかった。

そのため本研究では、まず当初予定の2019年度から2021年度の3年間の縦断研究において得られたデータの範囲内で、各学年の園での子どもと絵本の関わりを分析を行った(研究1)。新型コロナウイルスの感染拡大により、預かり保育の環境が大きく変化した2020年度については、環境変化が子どもの絵本との関わりに与えた影響を分析した(研究2)。環境変化後、1年を通して預かり保育が実施可能となった2022年度では、全園児を対象に預かり保育における子どもと絵本との関わりの変化を検討した(研究3)。加えて、預かり保育への参加の多い子どもと少ない子どもの絵本との関わりについて比較分析を行った(研究4)。

#### (2) 横断研究

先進的に預かり保育に取り組んでいる園として、ゆうゆうのもり幼保園(横浜市)、目黒区立みどりがおかこども園、千代田区立番町幼稚園の訪問調査を行った。地域性を検討するため協力園の近隣園2園も訪問調査し、各園の預かり保育のカリキュラムの比較分析を行った。

#### (3) カリキュラム開発

(1)、(2)の研究結果を総合し、「預かり保育」の絵本カリキュラムの作成を目指した(研究5)。

### 4. 研究成果

#### (1) 研究1: 縦断研究による各学年における子どもと絵本との関わり

##### (目的)

各年度の預かり保育の実施状況(環境、玩具、保育の流れ、担当者、教育課程に係る教育時間との関連)を踏まえ、3歳入園時から5歳卒園時までの子どもと絵本の関わりについて検討した。

##### (方法)

原則として週1回、教育課程に係る教育時間と預かり保育を観察し、子どもが絵本と関わる場

面を中心とした写真・ビデオ撮影を行うとともに、フィールドノートを作成した。また随時、観察クラスの担任保育者及び預かり保育担当者にインタビューを行った。実施状況については、協力園から資料の提供を受けた。

(結果と考察)

① 3歳児 (2019年度) : 1クラス 26名

預かり保育は、週3日、保育終了後から16:00まで、9カ月間(8,3月を除く)にのべ84回実施された。3歳児の参加者はのべ143人、20回以上3人、11~20回以上2人、2~6回9人、1回・0回が各6人、1日の平均参加者は1.7人だった。環境は、カーペット敷きの1部屋で異年齢の子どもと一緒に過ごし、保育室とは異なる玩具(ままごと・ドールハウス、ブロック・大型木製積木・カプラ、パズル・カードゲーム、色紙、お絵かき用紙・水性ペンなど)が置かれていた。絵本は、絵や仕掛けを楽しむ絵本が多く、読んでもらうのではなく自分で見て遊ぶものとして機能していた。保育の流れは、13:30に3歳児から順次預かり保育の部屋に来て、14:00頃に4,5歳児も揃う。14:40頃まで室内遊びをし、15:00頃おやつを食べて外遊びをする。15:30頃室内に戻り、担当者の絵本の読み聞かせなどがあり、16:00には降園する。担当者は、保育士経験を有する専任1人に、原則幼児教育を専攻する学部4回生が1人ついた。預かり保育と3歳児クラスの教育課程に係る教育時間の教育活動等との関連は、ほとんど見られなかった。

これらの結果より、協力園の3歳児の預かり保育は、参加者も少なく、教育課程に係る教育時間とは独立した活動であり、子どもにとって非日常的な特別な経験であるように考察された。安心して過ごす居場所としての機能が重要であり、絵本の選書も興味を引きやすく文字が読めなくても楽しめる仕掛け絵本が有効だった。

② 4歳児 (2020年度) : 2クラス 43名

預かり保育は、週3日、9カ月間にのべ70回実施された。4歳児の参加者はのべ341人、60回以上2人、30回1人、9~10回7人、1~7回18人、0回15人、1日の平均参加者は4.9人、1日の参加者は常時参加者と単発参加者が半々だった。保育の流れ、担当者は前年度と同じだった。一方、環境は新型コロナウイルス対策として、カーペットが撤去されテーブルを置くなど部屋のレイアウトが変更された。9月半ばからは空間を広くとるために場所も遊戯室に変更された。

このように2020年度も、預かり保育と教育課程に係る教育時間の教育活動とは独立した経験として捉えられた。安心して過ごせる居場所の確保が必要とされたが、どこでも1人で手に取って楽しむことができる絵本は、子どもたちに居場所を提供する機能を果たしていた。選書では、興味を引きやすく文字が読めなくても楽しめる仕掛け絵本は4歳児においても有効だった。

③ 5歳児 (2021年度) : 2クラス 43名

預かり保育は、週3日、11カ月間にのべ94回実施された。5歳児の参加者はのべ408人、60回以上2人、30回2人、10~14回6人、8~5回11人、4~1回10人、0回12人、1日の平均参加者は5.6人であった。ただし、3学期は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い参加者が制限され、学期ごとに見ると1学期5.7人、2学期4.3人、3学期2.9人であった。場所、保育の流れ、担当者は前年度と同じだった。

3学期は園への立ち入りが禁止され、観察が実施できなかった。1,2学期の観察からは、絵本は1人で読むだけでなく、友達と一緒に楽しめるため、居場所の提供とともに、友達との関わりを生む機能も果たしていた。選書では、仕掛け絵本は5歳児においても有効であり、同年齢の友達だけではなく、年少の子どもと共有する姿も多く見られた。一方で、1人でじっくりとストーリー絵本を読む5歳児も見られ、発達や興味に応じたカリキュラム作成の重要性が確認された。

(2) 研究2: 預かり保育の環境の変化による子どもと絵本の関わりの変化

(目的)

2020年度は、新型コロナウイルス対策のため預かり保育の場所が変わり、絵本環境が大きく変化した。この環境の変化が子どもと絵本の関わりにどのような影響を与えたのかを検討した。

(方法)

・手続き: 2020年10月~2021年3月に9回、預かり保育を観察し、子どもが絵本と関わる場面を中心に、写真及びビデオ撮影を行い、フィールドノートを作成した。

・分析: 絵本との関わりを(a)いつ、(b)誰と、(c)どのように、(d)どんな種類の絵本を読むのか、の4点から検討した。また、絵本の他にどのような遊びが行われていたのかを記録した。

(結果)

① 絵本環境

観察1回目(10/15)と2回目(10/29)以降では場所が遊戯室に変わり、絵本環境が大きく変化した。1回目は101冊の絵本の内30冊が本棚に面展されていたが、2回目以降は同じ本棚が広い遊戯室の視野に入りにくい場所に置かれ、面展されていた絵本は12冊程度だった。絵本の種類はいずれも物語絵本が中心だったが、冊数及び絵本を読む空間が変化した。

② 絵本との関わり

(a)いつ: 1回目は、室内遊び、外遊びから戻ってきた後、お迎えを待つ時間帯に絵本と関わる姿が多く見られた。一方、2回目以降は絵本との関わりが見られない日も2日間あり、絵本を手取る子どもも1日1,2人であった。室内遊びの時間に、紙飛行機を作るために『かみひこうき』(小林実文・林明子 絵, 福音館書店)を見る事例が3日間見られた。

(b)誰と: 1回目は「1人で絵本をみる」「保育者に読んでもらう」「友達と一緒にみる」「絵本を

みている友達を見る」と多様な行動が見られた。特に保育者が子どもと絵本を読んでいると他の子どもも加わった。一方、2回目以降はほとんどが「1人で絵本をみる」(4事例)であり、「友達と一緒にみる」(2事例)も見られたが、前述の『かみひこうき』の事例だった。

(c) どのように: 1回目は自分のテーブルで読むだけでなく、絵本を持ち運び、ウレタン積木を椅子にして読んだり、床に座って読むなど、遊びの場で読むいろいろな姿が見られた。一方、2回目以降は、自分のテーブルに着いて、また自分の椅子に座って読んでいた。

(d) 絵本の種類: 1回目は面展された絵本が読まれていた。2回目以降は、前述の『かみひこうき』が最も多く読まれた絵本だった。

表1 観察回ごとの参加人数と室内での遊び

月日	10/15	10/29	11/13	11/27	12/10	1/14	1/21	3/2	3/4
場所	遊戯室								
人数 合計	9	13	8	12	23	11	11	14	17
3歳児	3	3	1	2	3	0	2	1	1
4歳児	6	6	4	4	6	3	5	7	9
5歳児	0	4	3	6	14	8	4	6	7
遊び 絵本									
折り紙									
紙飛行機									
描画・制作									
ドールハウス									
カードゲーム									
ボードゲーム									
立体図形ブロック									
レゴブロック									
木製カプラ									
プラスチック製カプラ									
ウレタン積木									
知育玩具									
コマ回し									

注) 塗りつぶしたセルの遊びが見られたことを示す。  
斜線は環境に置かれていなかったことを示す。

### ③ 絵本以外の遊び (表1参照)

折り紙、紙飛行機、描画は、環境が変わった2回目以降も見られた。子どもたちは折り紙や紙が無くなれば、担当者に出してくれるよう、要求していた。ドールハウス、カプラ、ブロックも人気があった。3学期には、5歳児がクラスで流行っている遊び(コマ回し)を預かり保育でも友達と楽しんでおり、教育課程に係る教育時間との関連が見られた。

子どもたちは、冊数も減り、広い部屋で手に取りにくい場所に置かれた絵本を積極的に手にしたり、「出して」と保育者に求めることはなかった。一方、初めて預かり保育に参加した3歳児が、不安と所在なさを埋めるように、1人で絵本を手にしながら周囲で遊ぶ子どもの姿を見つめている姿が見られた。

#### (考察)

手に取りやすい環境に、魅力的な絵本が置かれていることが、子どもと絵本の関わりを生むことが確認された。一方、絵本が子どもの安心につながるものである

ことも確認された。預かり保育における絵本の位置づけ(絵本を楽しむ・絵本で友達とつながる等)を明確にし、ねらいをもって環境を構成することが重要である。

### (3) 研究3: 全学年を対象とした預かり保育における子どもと絵本の関わり

#### (目的)

全園児を対象に預かり保育における絵本との関わりの変化を検討した。分析年度の2022年度は、協力園のクラス編成及び預かり保育の体制が大きく変化した。新たに満3歳児保育が開始され(満3歳児15名、3歳児30名、4歳児30名、5歳児31名の計106名)、預かり保育も週3回から土日を除く週5回の実施となり、5月~翌3月まで(夏休みの8月を除く)の10カ月間に、のべ166回(1学期51回、2学期71回、3学期44回)実施された。一方、場所(遊戯室)、保育の流れ、担当者は、前年度と同じだった。ただし遊戯室内の環境は、満3歳児の参加者が3学期に増加することを見通し、2学期後半に低年齢児向けの絵本を増やし、くつろぐ場所として大判のカーペットを敷いた絵本コーナーが入口から目に入りやすい場所に設置された。

#### ① 預かり保育の実施状況

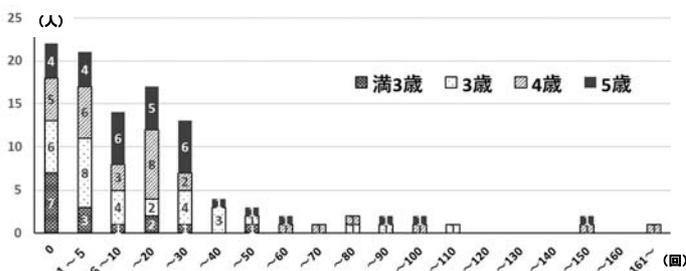


図1 学年別参加回数ごとの人数 (人)

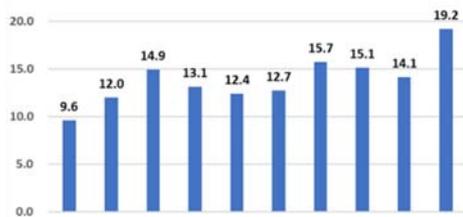


図2 月別1日の平均参加人数 (人)

166日間ののべ参加人数は2,229人、1か月の平均参加人数は222.9人(SD38.88)だった。図1に参加回数ごとの人数を示した。1度も参加したことのない子どもが最も多く22人(20.7%)、次いで1回が21人(19.8%)。1~30回までが65人(61.3%)、0回を合わせると30回までに8割以上が含まれた。

参加は単発が多く、実施日の6割以上となる100回以上は5人(4.7%)だった。

1日の参加人数の平均は13.4人、図2に1日の平均参加人数を月ごとにまとめた。学期末の月の参加者が多くなっていた。

#### ② 子どもと絵本の関わり

##### (方法)

・時期:2022年5月~2023年3月に計10回(月1回)、預かり保育を観察した。手続き、分析は研究2と同じ。

##### (結果)

(a) いつ: 室内遊び、おやつ後、外遊びから戻り、お迎えを待つ時間帯に絵本との関わりが見られた。

(b) 誰と: 最も多かったのは「1人で」だった。ただし、友達が絵本を読んでいるのを他の子どもが見て、「友達と一緒に」読み始めることもあった。保育者が子どもと絵本を読んでいると、多くの場合、他の子どももやって来た。先生と友達と一緒に絵本を見たり、その場に加わらなく

でも、その様子を見たり、自分も別の絵本を手取るなど、絵本と関わる姿が増えた。  
 (c)どのように：本を見ながら折り紙を折るなど、「本を参照する」関わりが多く見られた。「1人で」見るだけでなく、「友達と一緒に」同じものを作ろうとしたり、友達同士で教え合う姿も見られた。友達同士で解決できない場合は、保育者に尋ねる姿も見られた。

仕掛け絵本や迷路、探しもの絵本など、「絵本で遊ぶ」関わりも多く見られた。遊ぶ絵本を1人でじっくり読む姿も見られ、楽しみ方は多様であった。物語絵本を1人で読む子どももいた。環境に絵本があれば、子どもは読みたいときに読みたい絵本を選んで読むことが確認された。

(d) 絵本の種類：「折り紙」の本の他、「操作性の高い絵本（仕掛け、迷路、さがしっこ）」例：『けっこんしき』（おでこはめえほん、鈴木のみたけ、ブロンズ新社）や「繰り返しの楽しい絵本」例：『だるまさん』シリーズ（かがくいひろし、ブロンズ新社）がよく手に取られていた。じっくりと物語の世界に浸る絵本よりも、友達と一緒に遊びながら読む絵本が多かった。

（考察）

本研究では、子どもと絵本の関わりの変化を1年間の変化を検討したが、分析の4観点のいずれにおいても、時期による変化を取り出すことはできなかった。1回のみ単発の参加者が半数以上を占め、預かり保育での経験の積み重なりによる変化を分析しきれなかったとも考えられる。

#### (4) 研究4：預かり保育の参加回数の多い子どもと少ない子どもの絵本との関わり

（目的）

研究3の結果を受け、本研究では幼児の預かり保育の参加回数に着目し、預かり保育への参加の多寡が子どもと絵本との関わりに影響を与えるのかについて検討した。

（方法）

・手続き・分析：研究2・3と同様である。

・分析対象児の抽出（表2参照）

(a) 参加回数の多い子ども：100回以上参加の5人。

(b) 参加回数の少ない子ども：参加10回未満の子どもの内、観察日に参加していた13人。

・分析対象の預かり保育日（表2参照）：観察日の内、参加回数10回未満の幼児が参加していた6回。

（結果と考察）

結果を表3にまとめた。参加の少ない子どもは、そもそも絵本との関わりが少なかった。預かり保育ならではの玩具やクラスの友達と遊ぶことの方が多く、魅力的だったようだった。ただし、馴染のない場所での不安を解消するために、保育者にそばにいてもらおうと絵本を読んでもらう子どもの姿も見られた。絵本が安心感を得るツールとして機能していた。

一方、参加の多い子どもは、預かり保育の場にも慣れており、いろいろな場所でくつろぎ、1人で、あるいは友達と一緒に遊びながら絵本を読んでいた。くつろぎと友達との遊びを生むものとして絵本が機能していた。

表2 子どもと絵本の関わり分析対象：観察日ごとの参加人数（人）

		日付	7/11	9/16	12/19	1/27	2/17	3/16
		総参加人数	(14人)	(13人)	(10人)	(17人)	(16人)	(20人)
参加の少ない幼児(13人)	満3歳(2人)							2
	3歳(8人)			2	2			4
	5歳(3人)	1				1	1	
参加の多い幼児(5人)	3歳(1人)		1	1		1	1	
	4歳(3人)	3	3	1	3	3	3	
	5歳(1人)	1	1	1	1	1	1	

表3 参加回数の多い子どもと少ない子どもの絵本との関わり

	参加回数が多い子ども	参加回数が少ない子ども
(a)いつ	室内遊び・おやつ後	室内遊び
(b)誰と	1人で・友達と	保育者に読んでもらう
(c)どのように	室内のいろいろな場所でくつろいで	保育者と一緒に
(d)絵本の種類	友達と一緒に遊びながら読むような絵本 (仕掛け絵本や迷路、さがしっこ絵本や折り紙の本)	繰り返し構造をもつ楽しいユーモア絵本

#### (5) 研究5：預かり保育の絵本カリキュラムの開発

上記の研究結果と横断調査として預かり保育の先進園への訪問調査の結果を総合的にまとめ、VI期（I期：4月～5月連休前、II期：～7月下旬、III期：～8月夏休み、IV期：9月～運動会、V期：～12月、VI期：1月～春休み）

表4 「預かり保育」の絵本カリキュラム 絵本リスト項目

	絵本の特徴	具体例
つなぐ	家庭・園との連続性に着目し、子どもに安心感を与える絵本	・家庭で読まれている絵本やクラスで読まれている絵本
ひろげる	遊びや興味・関心を広げる絵本 子どもの探究を支える絵本	・生き物の図鑑：草花、昆虫、動物・製作の参考になる絵本：折り紙や紙飛行機など ・科学絵本：自然、行事絵本、子どもが生活する地域（ふるさと）に関わる絵本 ・製作の参考になる絵本：折り紙や紙飛行機など ・物語絵本、昔話絵本、童話
むすぶ	子ども同士の関係を結び、深める絵本	・しかけ絵本や、探しっこ絵本、ユーモア絵本など、友達と一緒に遊び、関わり合いながら読むことを楽しむ絵本 ・言葉遊び、クイズ、なぞなぞ絵本

「じっくり」(物語絵本、童話など、個人で静かに本の世界に入り込むことができるコーナー)、「のんびり」(友達と一緒に話しながら絵本を見合ったり、寝そべるなどくつろいだ姿勢で絵本をみることが出来るコーナー)、「わくわく」(製作の参考になる絵本や、知識を広げる図鑑など、を可動式の書棚に配架)の3つの絵本環境を提案した。

#### ③絵本から発展する活動・④学び

協力園で子どもたちが取り組むことの多かった折り紙、紙飛行機を例に、絵本リスト、活動の展開例、そこでの学びについて検討し、例示した。

①～④について、1年間の園生活の流れに合わせ、子どもの姿、ねらい、及び環境の構成と保育者の援助とともに提示した。

からなるカリキュラムを絵本リスト、絵本環境、絵本から発展する活動・学びに着目し、開発した。

#### ①絵本リスト（表4参照）

安心できる居場所を提供する「つなぐ」、子どもの世界を広げ、遊びや学びを展開させる「ひろげる」、子ども同士の関係を結び、深める3つの機能の観点から作成した。

#### ②絵本環境

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 横山真貴子	4. 巻 177
2. 論文標題 保育における子どもと絵本の出会い：出会いをつくり、発達を支える保育者の専門性	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 発達	6. 最初と最後の頁 2-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 横山真貴子
2. 発表標題 幼稚園の預かり保育における幼児と絵本のかかわり
3. 学会等名 日本発達心理学会第32回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 横山真貴子
2. 発表標題 幼稚園における預かり保育における幼児と絵本とのかかわり（2） - 環境の変化による絵本とのかかわりの変化 -
3. 学会等名 日本乳幼児教育学会第31回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 横山真貴子
2. 発表標題 幼稚園の預かり保育における幼児の絵本とのかかわり（3） - 1年間を通しての絵本とのかかわりの変化 -
3. 学会等名 日本発達心理学会第35回大会
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------